

これから Matrox 製品をご使用になるお客様へ

キヤノン IT ソリューションズ株式会社

エンジニアリングプロダクト事業部

2012 年 7 月改訂

# 目次

## ■ MIL9.0 R2 のインストール

1.1 インストール環境	2
1.2 MIL 旧 version (MIL9.0 以下) のアンインストール	2
1.3 MIL9.0 R2 のインストール手順	3
1.3.1 セットアップメニュー	3
1.3.2 インストールドライバの選択	3
1.3.3 Distributed MIL の設定	4
1.3.4 Default と Non-paged Memory の設定	4
1.3.5 MGA ドライバのインストール	5
1.3.6 MIL9.0 R2 インストール開始	6

## ■ MIL を使用する開発環境の設定

1. Visual C++における設定	7
2. Visual C# における設定	8
3. Visual Basic における設定	9

## ■ フレームグラバー

1. ドライバーのインストール (プラグアンドプレイ)	10
2. デバイスマネージャーで認識の確認	11

## ■ Intellicam で取り込み確認

1. ボードの選択	12
2. DCF ファイルの選択	12
3. 画像の取り込み	12

## ■ ライセンス

1. 開発版ライセンス (Development)	13
2. ランタイムライセンス (Runtime)	13
3. 30日間限定開発版ライセンス (Evaluation)	14
4. 30日間限定ランタイムライセンス (Temporary)	14

## ■ 再販インストーラ

1. 再販インストーラ作成	15
2. 再販インストーラのインストール	16

ご不明な点に関するお問い合わせ先	17
------------------	----

## MIL9.0 R2のインストール

この度は、Matrox Imaging Library をご購入いただきありがとうございます。P. 2～P. 6の手順に沿ってMIL9.0R2/MIL Lite 9.0 R2 / Active MIL9.0 R2 / Active MIL Lite 9.0 R2(以下、MIL9.0 R2)のインストールを行ってください。

### 1.1 インストール環境 ※1 ※2

MIL9.0 R2をインストールするには以下の環境が必要です。尚、OS及びコンパイラは事前にインストールを済ませてください。また、画像入力(処理)ボードを使用する場合は事前にPCへ挿入してください。

ご準備いただくものは以下の4点です。

1. OS
2. コンパイラ
3. 画像入力(処理)ボード
4. インストールDVD

#### 1. OS(以下のうち一つ) ※3

-Windows-

- Microsoft Windows 7(32 and 64-bit)
- Microsoft Windows Vista SP1 (32 and 64-bit)
- Microsoft Windows XP SP2 (32 and 64-bit)
- Microsoft Windows CE 6.0

-Linux- ※4

- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.4 (32-bit and 64-bit)
- SUSE Linux Enterprise (SLE) 11 (32-bit and 64-bit)
- Ubuntu 8.04 (32-bit and 64-bit)

#### 2 コンパイラ(以下のうち一つ)

- Microsoft Visual C++ .NET 2003 SP1
- Microsoft Visual C++ .NET 2005 SP1 + アップデート
- Microsoft Visual C++ .NET 2008
- Microsoft Visual C++ .NET 2010 + アップデート
- Microsoft Visual C# .NET 2003 SP1
- Microsoft Visual C# .NET 2005 SP1 + アップデート
- Microsoft Visual C# .NET 2008
- Microsoft Visual C# .NET 2010 + アップデート
- Microsoft Visual Basic++ 2003 SP1
- Microsoft Visual Basic++ 2005 SP1 + アップデート
- Microsoft Visual Basic++ 2008
- Microsoft Visual Basic++ 2010 + アップデート
- GNU Compiler Collection

#### 3. 画像入力(処理)ボード ※5

- Matrox 社製画像入力(処理)ボード各種

#### 4. インストールDVD

- MIL9.0 R2 用インストールDVD

※1. PCのユーザ名が日本語及び半角カタカナの場合、MILは正常に動作しません。

※2. PCのユーザはAdministrator 権限が必要です。

※3. 本紙ではWindows XPを使用してお説明します。

※4. LinuxでMILを使用する場合は別パッケージのLinux用MILが必要です。

※5. 本紙ではSolios-XQLを使用してお説明します。

### 1.2 MIL 旧version (MIL9.0以下) のアンインストール

この項目はMIL旧version (MIL9.0以下) が既にインストールされている場合に必要作業内容です。該当しない場合はP. 3の1.3 MIL9.0 R2のインストール手順へ進んでください。

MIL旧versionが既にインストールされている場合、アンインストールしていただく必要があります。作業手順は以下の通りです。

#### アンインストール手順

スタートメニュー → 「設定」 → 「コントロールパネル」  
→ 「プログラムの追加と削除」から、【Matrox Imaging】を削除してください。

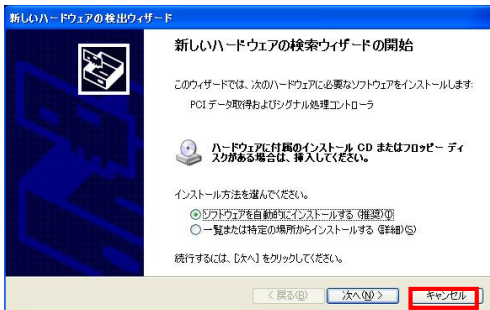
#### アンインストールに失敗した場合

「Clean MIL」を使用していただくことで解消します。

「Clean MIL」のダウンロード及び詳細情報は弊社サポートページ (<http://im.canon-its.jp>) をご確認ください。

### 1.3 MIL9.0 R2 のインストール手順

MIL9.0 R2 インストール前に画像入力(処理)ボードを挿入している場合、PC 電源投入後に下記のようなハードウェアドライバのインストールが始まります。ボードを挿入していない場合は、この画面は立ち上がりません。



全てのインストールに対し「キャンセル」を選択してください。※6

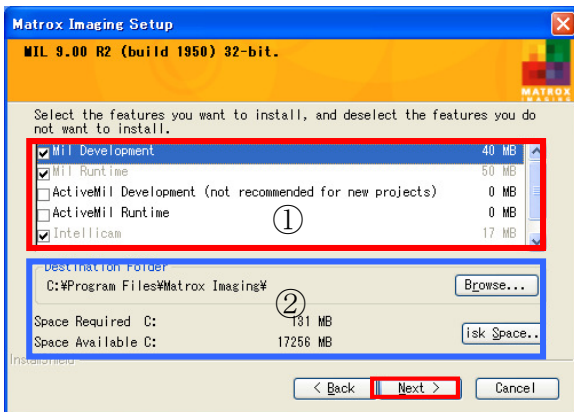
※6. MIL インストール後ハードウェアドライバは自動認識されます。

#### 1.3.1 セットアップメニュー

インストール DVD をセットすると、プログラムが自動的に起動し、インストール初期画面が立ち上がります。※7

※7. セットアッププログラムが自動的に起動しない場合はインストール DVD 内の setup.exe を実行してください。

インストールするソフトウェア、インストールを行うフォルダとインストールに必要な容量の情報が表示されます。



全て設定後「Next」ボタンをクリックしてください。

#### ① ソフトウェアインストール

■ Mil Development	Mil の開発版モジュール
■ Mil Runtime	Mil の運用版モジュール
■ ActiveMil Development	ActiveMil の開発版モジュール
■ ActiveMil Runtime	ActiveMil の運用版モジュール
■ Intellicam	カメラの設定や DCF ファイルの作成・変更、映像の取り込み確認等ができる GUI ツール

今後、Matrox は ActiveX Control での開発をサポートしない方向性であるため、弊社では ActiveMil Development による開発はお勧めしていません。

インストールするソフトウェアに関しては、使用するアプリケーションに応じて必要なソフトウェアを選択してください。

#### MIL (MIL-Lite)

- ・ MIL Development
- ・ MIL Runtime
- ・ Intellicam

#### ActiveMIL (ActiveMIL-Lite)

- ・ ActiveMIL Development
- ・ ActiveMIL Runtime
- ・ Intellicam

#### Intellicam

- ・ Intellicam

#### ② フォルダ・容量

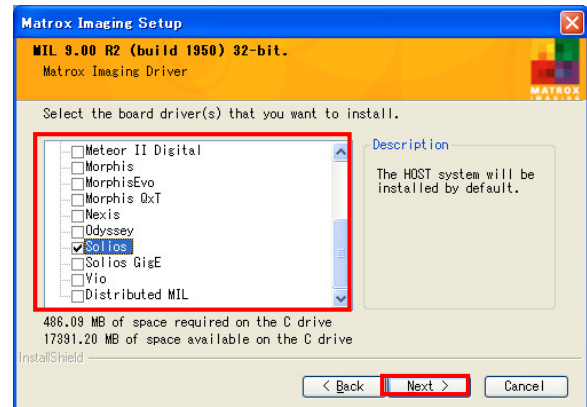
インストールするフォルダの設定と実際に使用する容量を確認します。

■ Destination Folder	インストールフォルダの設定
■ Space Required C:	必要な空き容量
■ Space Available C:	現在の空き容量

#### 1.3.2 インストールドライバの選択

インストールする画像ボードのドライバの選択を行います。(複数選択可能)弊社では使用するボードに関わらず「GPU」選択を推奨しています。※8

※8. ここでは Solios-XQL を使用するため「Solios」を選択しています。

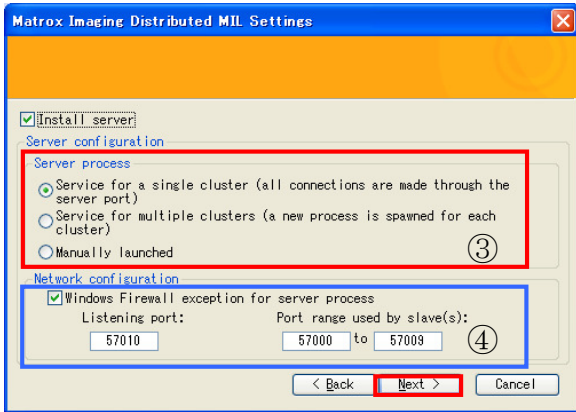


必要なドライバを選択後、「Next」ボタンをクリックしてください。

### 1.3.3 Distributed MIL の設定

この項目は Distributed MIL のドライバを選択した場合に生じる内容です。該当しない場合は次項 [1.3.4 default と Non-paged Memory の設定](#) へ進んでください。

Distributed MIL のドライバを選択した場合、以下のような画面が表示されます。



Distributed MIL に関する設定を行い「Next」ボタンをクリックしてください。

#### ③ Server process

- Service for a single cluster  
1 つの Client (Master) に 1 つ以上の Server (Slave) を繋ぐ場合
- Service for a multiple clusters  
2 つ以上の Client (Master) に 2 つ以上の Server (Slave) を繋ぐ場合
- Manually Launched  
Server で Display を表示する場合

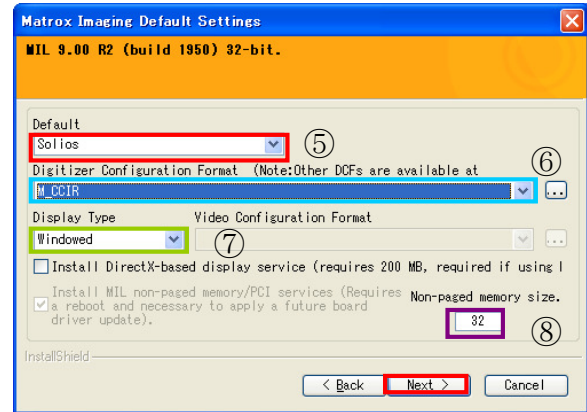
#### ④ Network configuration

- Listening port  
Client (Master) と Server (Slave) 間で通信する際のポート番号
- Port range used by slave(s)  
Server (Slave) と Server (Slave) 間で通信する際のポート番号

### 1.3.4 Default と Non-paged Memory の設定

MIL 起動時デフォルトとして設定される項目の選択と Non-paged Memory を設定します。※9

※9. デフォルトとして設定する項目および Non-paged Memory は後で設定変更可能です。



#### ⑤ Default (デフォルトドライバ) の選択

この項目では、デフォルトで使用する画像ボードを選択します。

[1.3.2 インストールドライバの選択](#) で Solios を選択しているため Solios が設定されています。

#### ⑥ Digitizer Configuration Format (DCF ファイル) の選択

DCF ファイルは接続しているカメラに応じて必要なものを選択します。

#### ⑦ Display Type (ディスプレイ) の選択

ディスプレイ選択は MIL を使用時の画像の表示先を決定します。

- Windowed  
使用している PC のデスクトップ上に表示します。
- Auxiliary  
デスクトップ上以外の場所に表示します。またこのモードでは Video Configuration Format (vcf ファイル) の選択を行います。
- Exclusive※10  
デスクトップ上以外の場所に表示します。

※10. Exclusive を選択する場合、Auxiliary に対応していないグラフィックスボードを使用する場合があります。

#### ⑧ Non-paged Memory の設定

Non-paged Memory を設定し、「NEXT」ボタンをクリックしてください。

## Non-paged Memory とは

Non-paged Memory は、OS が管理しないメモリのことです。MIL では、画像・映像データ用バッファとして Non-paged Memory を確保することにより高速なデータ転送 (DMA 転送) を行います。Non-paged Memory を確保する場合、PC に搭載したメモリの一部を占有することになりますので、PC のメモリから Non-paged Memory を差し引いた分が OS の管理するメモリとなります。

### 【Non-paged Memory の設定目安】

#### \*1 枚分の画像メモリサイズ

- ・ 640×480 8-bit モノクロカメラでは1枚約 **300KB**
- ・ 640×480 8-bit カラーカメラでは1枚約 **1MB**
- ・ 1024×1024 8-bit モノクロカメラでは1枚約 **1MB**
- ・ 1024×1024 8-bit カラーカメラでは1枚約 **3MB**

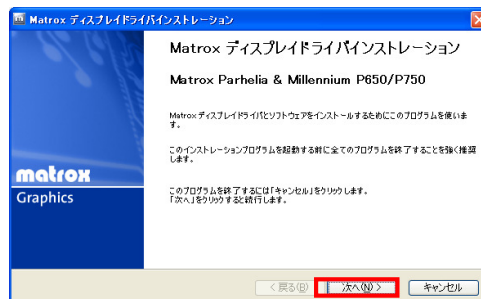
以上に加え、処理に必要な枚数分の合計を設定してください。ただし、通常は Non-paged Memory も Temporary Memory として利用されるため、少し多めのサイズを設定されることをお勧めします。

Non-paged Memory サイズは、使用する画像メモリ量(画像サイズ×枚数)を設定する必要があります。Non-paged Memory を設定する際、0 または PC のメモリ以上の値を設定しないでください。これらの値を設定すると PC が不具合を起こす可能性があります。ただし、OS が管理するメモリは最低 256MB 確保しておくことをお勧めします。

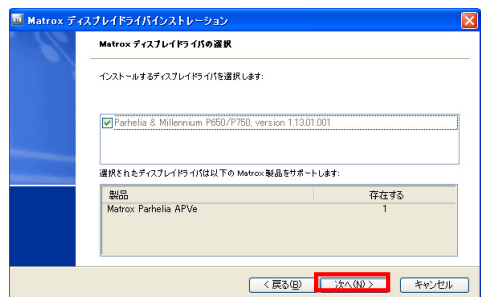
## 1.3.5 MGA ドライバのインストール ※11

※11. MGA =Matrox のグラフィックカード用ドライバ

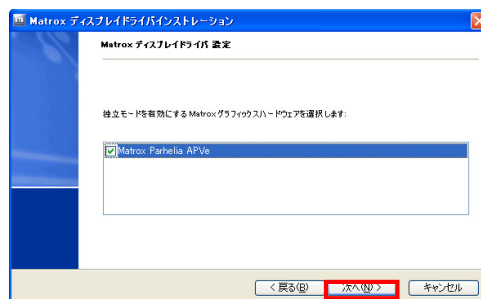
この項目は **Matrox 社製グラフィックボード** を挿入している場合に生じる内容です。該当しない場合は P. 6 の **1.3.6 MIL9.0R2 のインストール** へ進んでください。



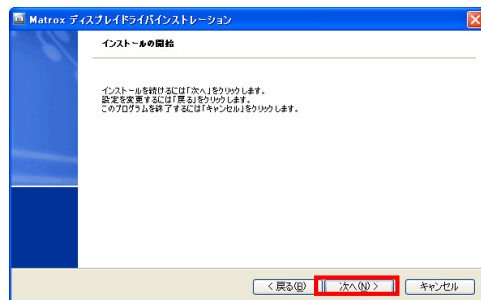
「次へ」をクリックします。



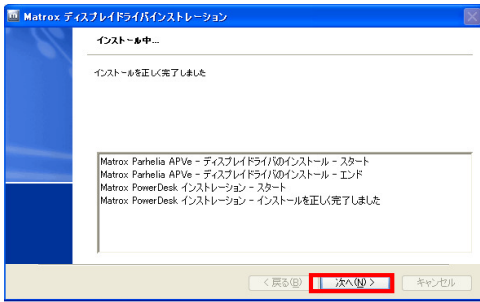
インストールするディスプレイドライバを選択し「次へ」をクリックします。



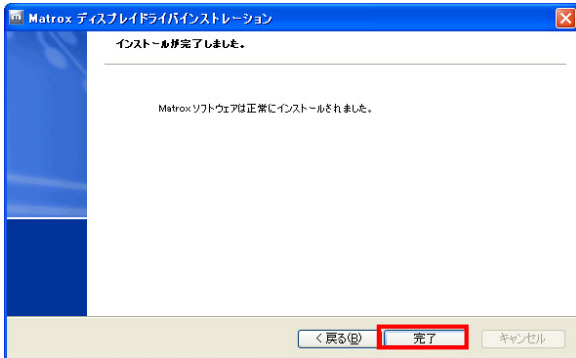
ディスプレイの独立機能を有効にする Matrox グラフィクスハードウェアを選択し「次へ」をクリックします。



インストールを開始します。続けるには「次へ」をクリックしてください。



「次へ」をクリックしてください。

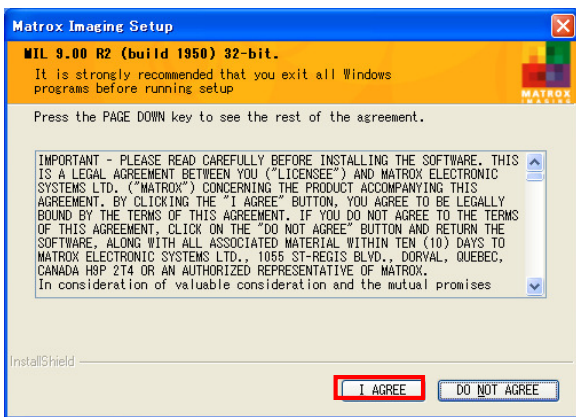


インストール完了のメッセージが表示されます。

「完了」をクリックして MGA ドライバのインストールは終了です。

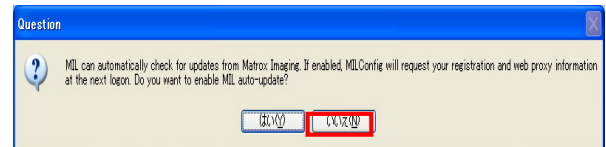
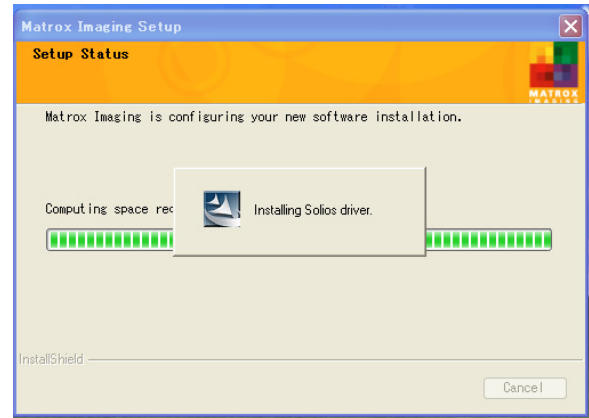
### 1.3.6 MIL9.0 R2 インストール開始

1.3.4 Default と Non-paged Memory の設定又は 1.3.5 MGA ドライバのインストール後 MIL のインストールが開始されます。



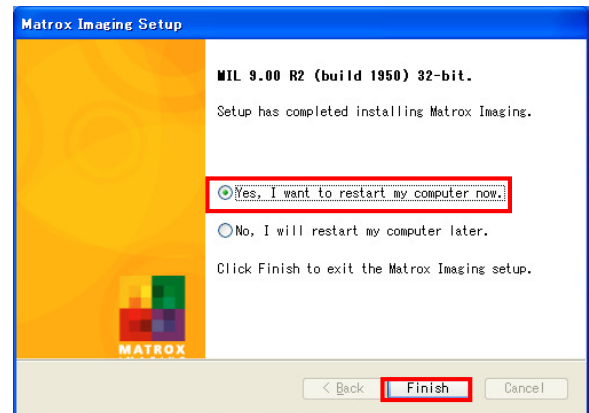
使用許諾に関する同意を求めています。

内容に問題なければ「I AGREE」をクリックしてインストールを行います。



Web を介して、自動で最新版の MIL にバージョンアップするかどうかを選択する画面が表示されます。ここでは「いいえ」を選択してください。※12

※12. Update File、BugFix 等は弊社にてテストを行い弊社サポートページにて公開しています。ダウンロードは弊社サポートページのご利用をお勧めします。(http://im.canon-its.jp)



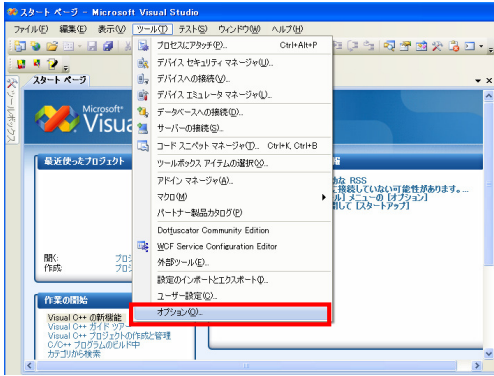
インストールが終了すると再起動を確認するメッセージが表示されます。Yes を選択した後、「Finish」をクリックして MIL のインストールを終了します。

再起動を行わなければ Non-paged Memory の設定が有効にならないため、必ず再起動してください。

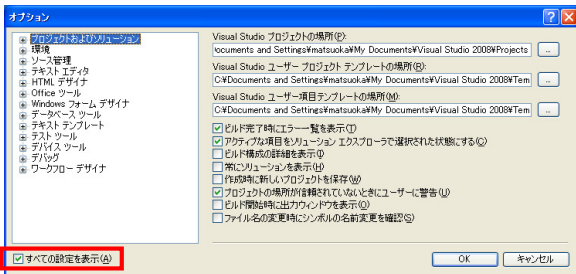
# MIL を使用する開発環境の設定

## 1. Visual C++における設定

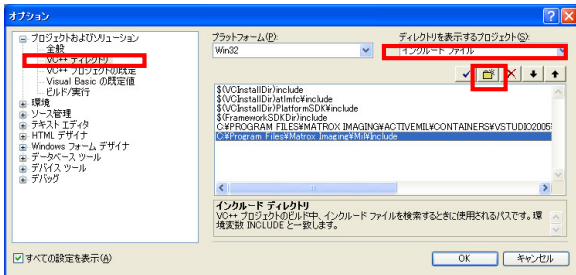
ここではVisual C++ 環境でMIL をご使用になるお客様向けに初期設定をご説明します。




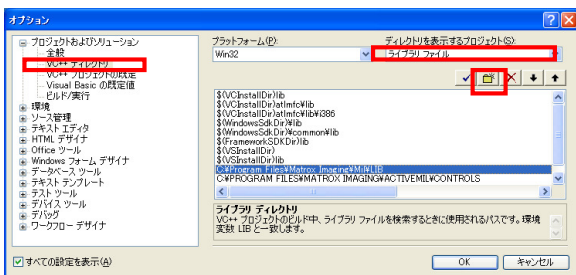
Visual Studio を起動後、「ツール」→「オプション」を選択します。



「すべての設定を表示」にチェックを入れます。



項目は「VC++ディレクトリ」を選択し、ウィンドウ右上「ディレクトリを表示するプロジェクト」を「インクルードファイル」に変更します。「行を追加」ボタン  クリックし、ディレクトリに **C:\Program Files\Matrox Imaging\MI\include** を追加します。

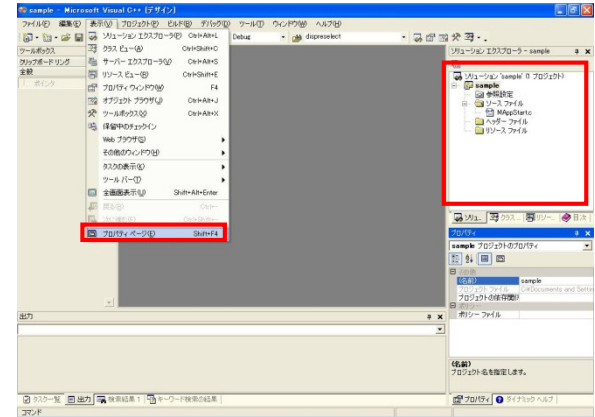


項目は「VC++ディレクトリ」を選択したまま、ウィンドウ右上「ディレクトリを表示するプロジェクト」を「ライブラリファイル」に変更します。

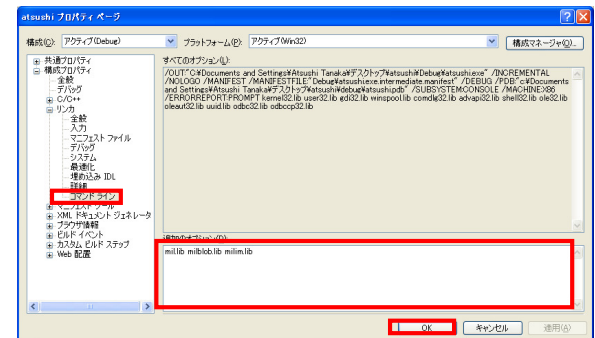
「行を追加」ボタン  クリックし、ディレクトリに **C:\Program Files**

**\Matrox Imaging\MI\lib** を追加します。

次に、Visual C++上でMIL を使用するための設定を行います。あらかじめ作成したVisual C++プロジェクトを開きます。



ライブラリの設定を行います。「ソリューションエクスプローラー」内のプロジェクト名を選択した状態で「表示」→「プロパティページ」を選択します。



「構成プロパティ」内の「リンカ」→「コマンドライン」を選択します。右下の「追加のオプション」にライブラリファイル(\*.lib)※1 を記述します。記述後、「OK ボタン」をクリックしてください。

※1 ライブラリファイル=C:\Program Files\Matrox Imaging\MI\lib

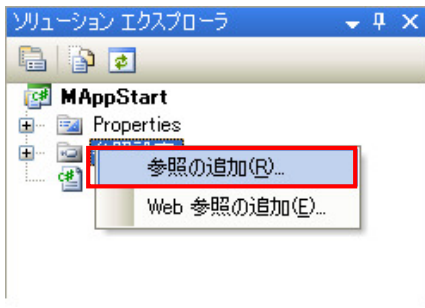
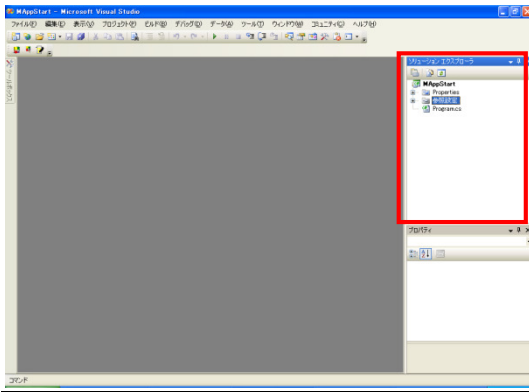
以上で、開発環境(Visual C++)の設定は完了です。



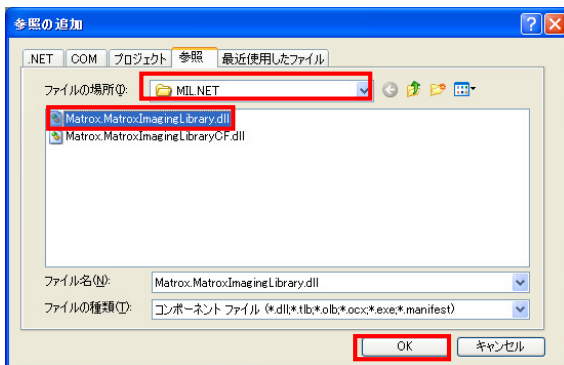
## 2. Visual C#における設定

ここではVisual C#環境でMILをご使用になるお客様向けに初期設定をご説明します。

あらかじめ作成したVisual C#のプロジェクトを開きます。



項目の「参照設定」を右クリックし「参照の追加」を選択します。



参照タブに切り替え、ファイルの場所を下記に変更します。

**C:\ProgramFiles\MatroxImaging\MIL\MIL.NET\Matrox.MatroxImaging.Library.dll**

設定後OK ボタンをクリックし設定完了です。

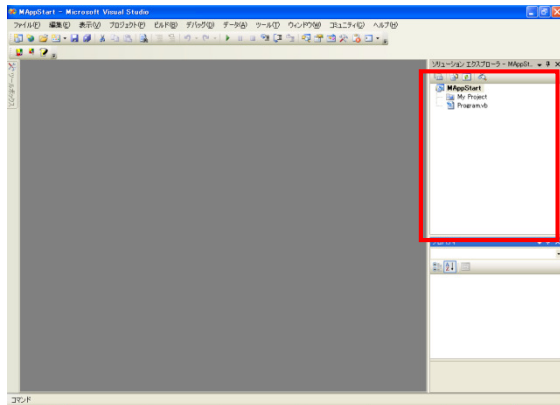
ソースコードに“**Using Matrox Imaging Library**”を追加で記述することで、MILを使用することができます。

以上で、開発環境(Visual C#)の設定は完了です。

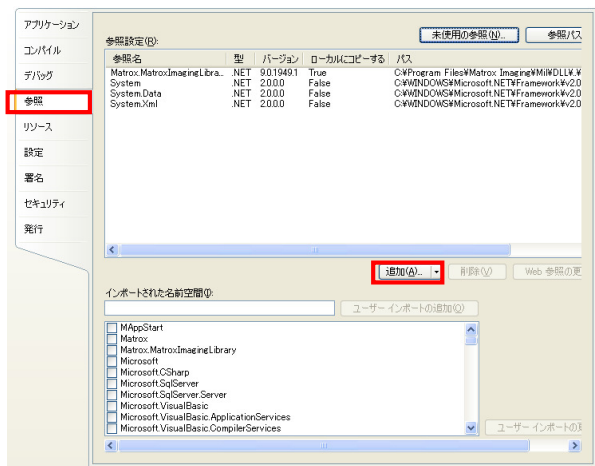
### 3. Visual Basic における設定

ここでは Visual Basic 環境で MIL をご使用になるお客様向けに初期設定をご説明します。

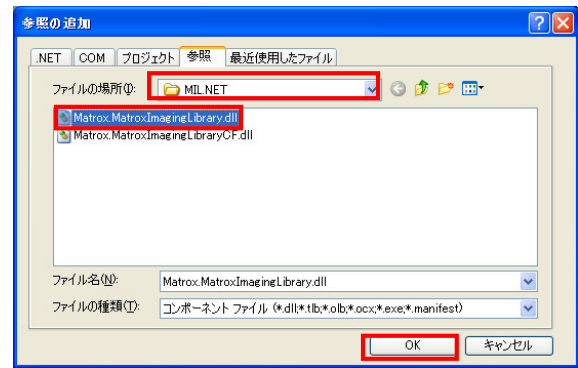
あらかじめ作成した Visual Basic のプロジェクトを開きます。



プロジェクトを選択し右クリックで「プロパティ」を選択します。



タブを「参照」に切り替え、追加ボタンをクリックします。



参照タブに切り替え、ファイルの場所を下記に変更します。

**C:\Program Files\Matrox\Imaging\MIL\MILNET\Matrox.MatroxImagingLibrary.dll**

設定後 OK ボタンをクリックし設定完了です。

ソースコードに “**Imports Matrox Imaging Library**” を追加で記述することで、MIL を使用することができます。

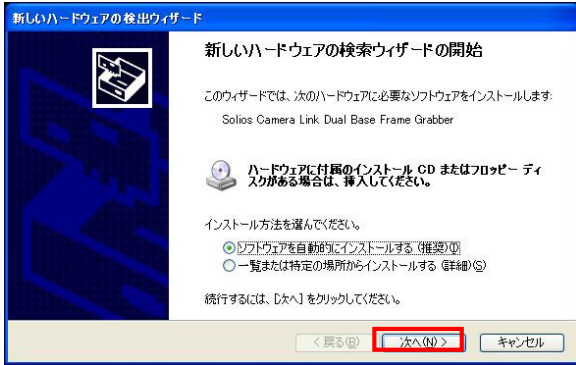
以上で、開発環境 (Visual Basic) の設定は完了です。

## フレームグラバー

この項目はMIL9.0R2のインストール後にフレームグラバーを挿した場合に生じる内容です。何も検出されない場合は次項へ進んでください。

### 1. ドライバーのインストール (プラグアンドプレイ)

MIL9.0R2 インストール後、Matrox 製フレームグラバーをPCに挿入し電源を入れると、以下のように自動的に新規ハードウェアのインストールが始まります。



<ソフトウェアを自動的にインストールする>を選択して「次へ」をクリックしてください。

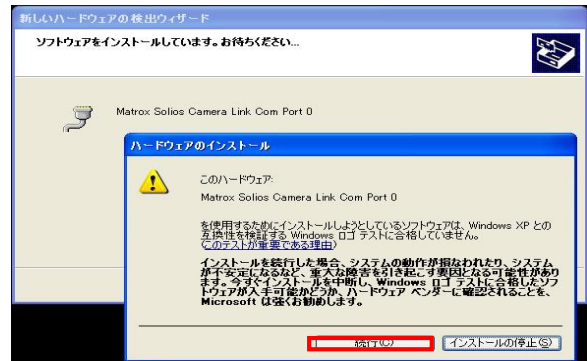


「完了」をクリックしてください。

この後、Cam Port ドライバのインストールが始まります。



<ソフトウェアを自動的にインストールする>を選択して「次へ」をクリックしてください。



「続行」をクリックしてください。



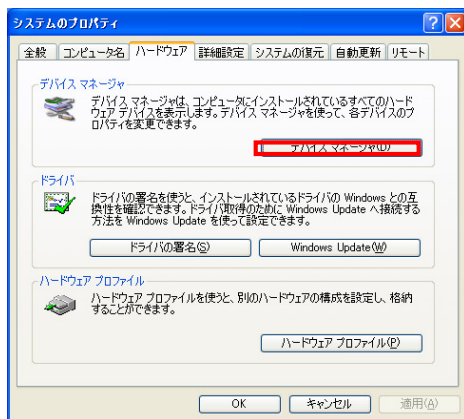
「完了」をクリックします。

インストールに失敗した場合は次ページを参照の上、デバイスマネージャーで確認作業を行ってください。

## 2. デバイスマネージャで認識を確認

ボードが正常に認識されているかを確認します。

「マイコンピュータ」を右クリックし「プロパティ」を選択すると「システムのプロパティ」ダイアログが表示されます。その中で「ハードウェア」タブを選択すると以下の画面が表示されます。

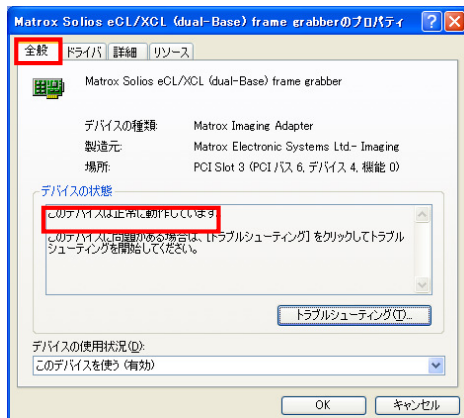


「デバイスマネージャ」ボタンをクリックしてください。



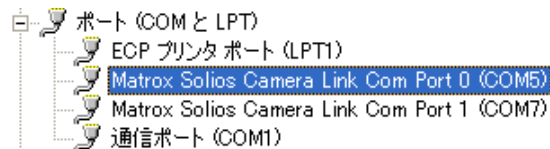
「デバイスマネージャ」画面の中で「Matrox Imaging Adapter」をクリックします。挿入しているボード（今回はSolios eCL/XCL）が表示されます。

ボードを選択した状態で右クリックで「プロパティ」を選択します。「全般」タブのデバイスの状態を確認してください。

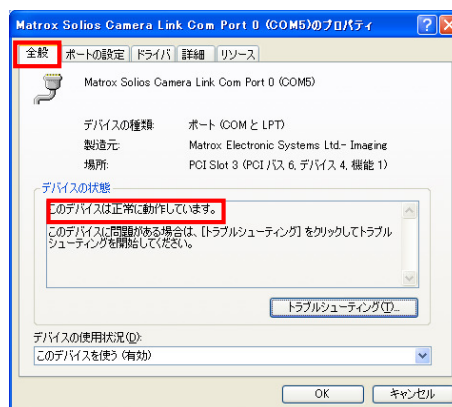


「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていない場合は問題ありません。上記以外のコメントが表示された場合は後述の対処方法をお試しください。

次にCOMポートの確認を行います。

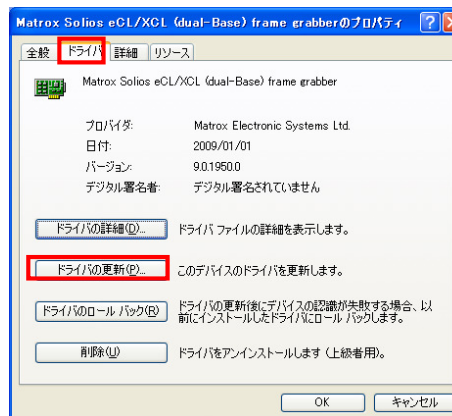


「デバイスマネージャ」画面の中で「ポート (COM と LPT)」をクリックします。挿入しているボードのCom Port（今回はSolios Camera Link Com Port 0 (COM5) と Com Port1 (COM7)）が表示されます。右クリックで「プロパティ」を選択します。「全般」タブのデバイスの状態を確認してください。



「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていない場合は問題ありません。上記以外のコメントが表示された場合は後述の対処方法をお試しください。

### <ボードが正常に認識されていない場合の対処方法>



手順は以下の通りです。

1. 「ドライバ」タブでドライバの更新
2. 1で失敗した場合、ボードを挿入するスロット位置を変えドライバの更新
3. 2で失敗した場合、MIL9.0 R2を再インストール。

以上の対処方法を試して頂いた上で正常に認識されていない場合、下記までお問い合わせください。

キヤノン IT ソリューションズ 総合エンジニアリングソリューション事業部

電話：03-5730-7133（東京）、06-7635-3060（大阪）

E-mail: image-support@canon-its.co.jp

## Intellicam で取り込み確認

フレームグラバが正常に動作しているか Intellicam を使い、確認します。下記準備後、Intellicam を起動します。※1

Intellicam 起動前に下記をご準備ください。※2



- ライセンスキーの挿入（あるいは取得）
- カメラ
- 画像入力（処理）ボード

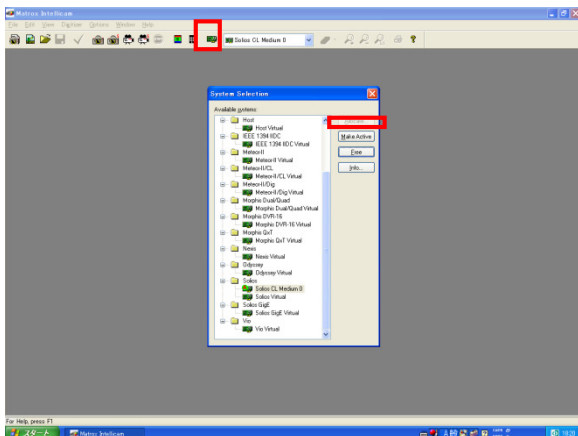
※1. スタートメニュー → 「Matrox Imaging」 → 「Tools」 → 「Intellicam」

※2. ライセンスについては次項「ライセンス」を参照

### 1. ボードの選択

Intellicam を起動すると下図の画面が立ち上がります。

 をクリックし下図中央のウィンドウを表示します。 がボード名の前についているものは使用中です。※3

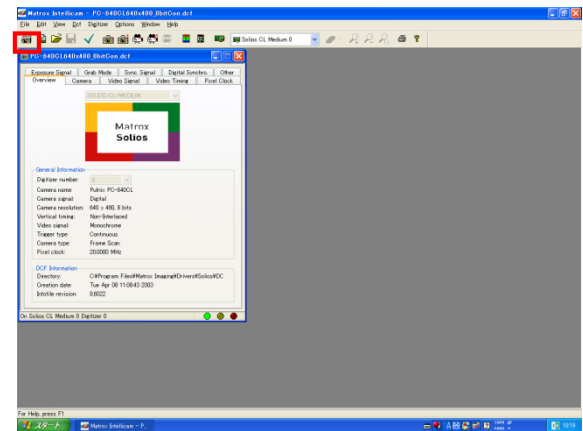



使用する場合フレームグラバをを変更する場合は変更したいシリーズ名を選択し、「Allocate」をクリックしてください。なお、使用できるフレームグラバはボード名の最後「0」がついています。

※3. 挿入しているボードが画面に表示されていない場合、ボードとドライバが正常に認識されていない可能性があります。その場合は前項「フレームグラバ」の説明に沿ってボードとドライバの確認を行ってください。

### 2. DCF ファイルの選択※4 ※5

ボードで画像を取り込むために DCF ファイルを設定します。



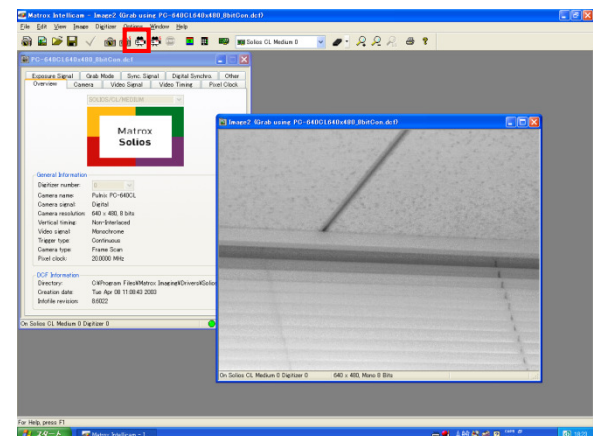
 をクリックすると DCF ファイルを選択することができます。機種に応じた DCF ファイルを選択してください。

※4. DCF ファイルは使用するカメラの機種・設定に応じて存在します。ご使用するカメラをご確認ください。

※5. 一覧および PC 内に存在しなければ Matrox 社の HP (<http://www.matrox.com>) または弊社サポートページ (<http://im.canon-its.jp>) から取得してください。

### 3. 画像の取り込み

実際に画像を取り込みます。



画像をキャプチャするには  Continuous Grab ボタンをクリックしてください。何も表示されない場合には以下のことが考えられます。

① DCF ファイルが適切でない	② カメラの設定と DCF の設定が合っていない
③ レンズとカメラが不適合	④ 機器の接触不良

④に関しては、電源を落としボードを外して再度ボードを差し込む、またはボードを差し込むスロットを変更するなどの処置を行ってください。

# ライセンス

MIL9.0R2 をご使用いただく際には必ずライセンスが必要です。ライセンスは【Development】【Runtime】【Evaluation】【Temporary】の4種類があり、【Evaluation】と【Temporary】は一時的にライセンスを有効にするものです。※1

■ Development	開発版ライセンス
■ Runtime	ランタイムライセンス
■ Evaluation	30日間限定開発版ライセンス
■ Temporary	30日間限定ランタイムライセンス

※1. MIL Lite 9.0R2 の場合、ライセンスは必要ありません。

## 1. 開発版ライセンス (Development)

MIL9.0R2 を使用し、開発する際に1つのPCに対して1つのライセンスキーを挿入する必要があります。開発版ライセンスキーには2種類あり、USB ポート用のキーまたはパラレルポート用のキーいずれかをご購入時に選択していただけます。

型式は、USB キーがMIL9WINPU、パラレルキーはMIL9WINPP となり各々MIL9.0R2 のインストール用DVD を同梱しています。



USB キー



パラレルキー

## 2. ランタイムライセンス (Runtime)

MIL9.0R2 を使用し作成したリリース .exe を、開発用 PC とは別のPC で動かすために必要となるライセンスです。ランタイムライセンスは2種類で、詳細は下記をご確認ください。

### ① USB キー(U) またはパラレルキー(P)

型式: MIL RT ID + U 又は P と M9RTxxxxxx000  
M9RTxxxxxx000 の「x」には使用する機能に対応した文字を入れます。詳細は弊社または販売代理店にお問い合わせください。

### ② Matrox 製フレームグラバーにライセンスを埋込むタイプ

型式: M9RTxxxxxx000  
M9RTxxxxxx000 の「x」には使用する機能に対応した文字を入れます。詳細は弊社または販売代理店にお問い合わせください。

①の場合、ランタイムライセンスがキー本体に埋め込まれているため、キーをPCに挿入することでリリース .exe を動かすことができます。

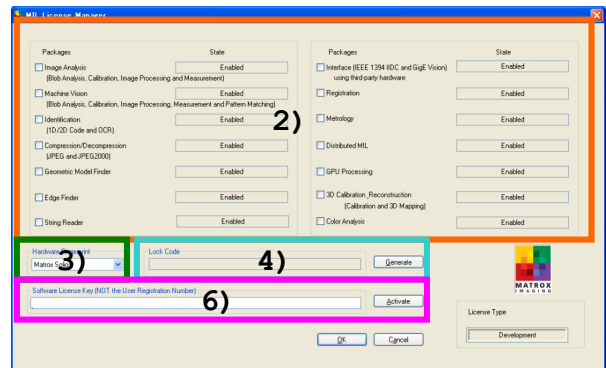
②の場合、お客様にライセンスコードを発行していただく必要があります。その場合、事前にMIL9.0R2 と Matrox 製フレームグラ

バーをご購入いただく必要がございます。**ライセンスコード発行の手順は以下の1)~6)をご確認ください。**

**尚、以後の作業は必ずMILのアプリケーション(Intellicamなど)を全て終了してから行ってください。**

### 1) MIL License Manager の起動

スタートメニューから、「すべてのプログラム」→「Matrox Imaging」→「Tools」→「License Manager」を選択してください。このショートカットが存在しない場合には、C:\Program Files\Matrox Imaging\Tools\License Manager.exe を選択し、実行してください。



MIL License Manager 画面

### 2) Package の選択

リリース .exe に含まれるMIL9.0R2 の機能にチェックを入れます。

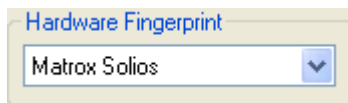
■ Image Analysis※2	基本画像処理・測長 ・粒子解析・キャリブレーション
■ Machine Vision※2	Image Analysisの機能 + パターンマッチング
■ Identification	1次元/2次元コード認識 (Bar/Matrix Code)・OCR
■ Compression/Decompression	JPEG/JPEG2000 コーデック
■ Geometric Model Finder	幾何形状認識
■ Edge Finder	エッジファインダ
■ String Reader	文字認識
■ Interface using third-party hardware	シリアルバスドライバ(IEEE1394・GigE Vision用)
■ Registration	レジストレーション
■ Metrology	メトロロジー
■ Distributed MIL	ディストリビュートMIL
■ GPU Processing	GPU 処理
■ 3D Calibration Reconstruction	3次元キャリブレーション
■ Color Analysis	カラー処理

Package 一覧

※2. Image Analysis、Machine Visionはどちらか一方のみの選択できます。

### 3) Hardware Fingerprint

PCに接続しているHardwareが表示されます。ここではランタイムライセンスを埋め込むHardware(フレームグラバ)を選択します。

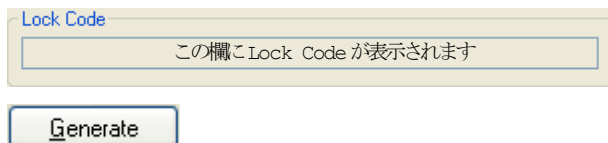


M_SOLIOS_FINGERPRINT	M_CONCORD_GIGE_FINGERPRINT
M_SOLIOS_GIGE_FINGERPRINT	M_CRONOSPLUS_FINGERPRINT
M_METEOR_II_FINGERPRINT	M_VIO_FINGERPRINT
M_MORPHIS_FINGERPRINT	M_HW_ID_KEY_FINGERPRINT
M_MORPHIS_QXT_FINGERPRINT	M_HW_LIC_KEY_FINGERPRINT
M_HELIOS_FINGERPRINT	M_MTX_ID_KEY_FINGERPRINT
M_4SIGHT_M_FINGERPRINT	M_ANY_FINGERPRINT
M_IRIS_FINGERPRINT	M_ETHERNET_FINGERPRINT
M_1394_FINGERPRINT	M_NEXIS_FINGERPRINT
M_HW_ID_KEY_PLUS_FINGERPRINT	

Hardware Fingerprint 一覧

### 4) Lock Code の取得

「Generate」ボタンを押すと、「Lock Code」欄にLock Codeが表示されます。



### 5) 取得したLock Codeを送付

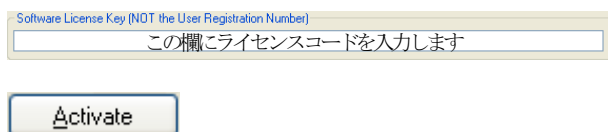
お手数ですがLock Codeを弊社営業担当または販売代理店までメールにてご連絡ください。※3

※3. Lock Codeはお間違いのないように「Lock Code」欄をコピー&ペーストしメールにて記入ください。

### 6) ライセンスコードの有効化

Lock Codeをご連絡数頂いてから数日後、弊社よりライセンスコードをメールにてお知らせ致します。そのコードを「License Manager」ダイアログの「Software License Key」欄にライセンスコードを入力して、「Activate」ボタンをクリックしてください。「OK」ボタンでLicense Managerを終了します。

**尚、この作業は必ずMILのアプリケーション(Intellicamなど)を全て終了してから行ってください。**



以上で、Matrox製フレームグラバにライセンスを埋め込むことができます。

### 3. 30日間限定開発版ライセンス(Evaluation)

MIL9. OR2 開発版をライセンスキー無しでご使用いただくことができます。ご利用期間は30日間限定です。

なお、一度Evaluationを取得したPCに再度Evaluationを取得することはできませんのでご了承ください。Evaluationのお申込みは、弊社サポートページ(<http://im.canon-its.jp>)またはMatrox社のHP(<http://www.matrox.com>)までお問い合わせください。

### 4. 30日間限定ランタイムライセンス(Temporary)

Matrox製フレームグラバにライセンスを埋め込む形でランタイムライセンスを有効にします。ご利用期間は30日間限定です。

なお、一度Temporaryを取得したフレームグラバに再度Temporaryを取得することはできませんのでご了承ください。

**また、このライセンスはフレームグラバ本体に埋め込むため、フレームグラバが故障したときやフレームグラバを使用していないときにTemporaryは取得できません。**

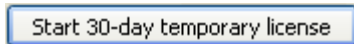
Temporaryの取得手順は以下をご参照ください。

<Temporary取得手順>

Temporaryを取得するPCでC:\ProgramFiles\Matrox Imaging\Toolの「milconfig.exe」を実行します。

次にMILConfig上で「Licensing」タブ→「Temporary License」を選択します。

「Start 30-day temporary license」ボタンを押すと、Temporaryが有効になります。



## 再販インストーラ

この項目はMIL9.0R2で開発したリリース.exeを開発PCとは別のPCで運用するお客様向けの説明です。

ご準備いただくものは以下の2点です。

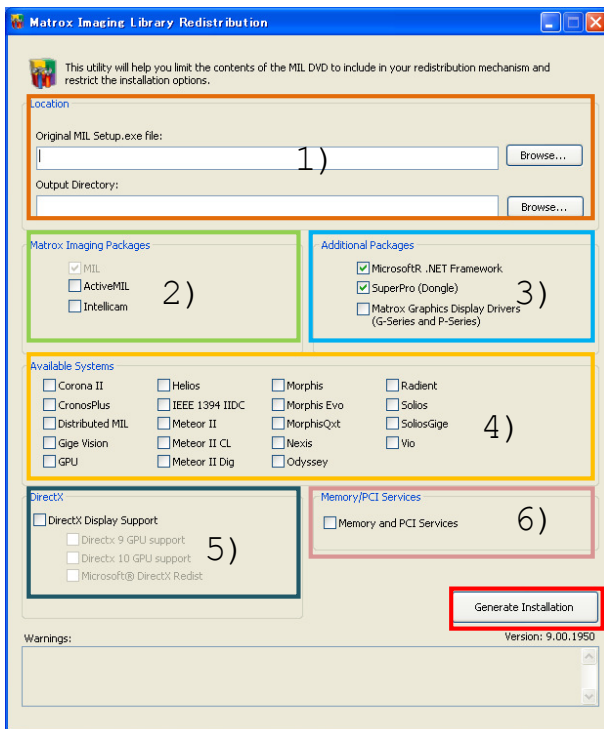
- OS ※1
- インストールDVD

※1. 対応OSについてはP.2の1.1インストール環境をご確認ください。

### 1. 再販インストーラ作成

MIL9.0R2のインストールDVDをPCに挿入します。

DVD内にある¥Redist¥redist.exeを起動します。



#### 1) Location

- Original MIL Setup.exe file:  
…「Browse…」ボタンでMIL9.0R2のSetup.exeが存在するパスを指定します。
- Output Directory:  
…「Browse…」ボタンでMIL9.0R2の再販インストーラを保存する場所を指定します。この際、新しいフォルダを作成しそのフォルダに保存することをお勧めします。

#### 2) Matrox Imaging Packages

リリース.exeを動かす環境にインストールするパッケージを選択します。

■ MIL ※2	再販用MIL (DLL、ドライバー等)
■ ActiveMIL	再販用ActiveMIL (同上)
■ Intellicam	Intellicam

※2. MILは自動的にチェックが入ります。

#### 3) Additional Packages

リリース.exeを動かす環境にインストールするパッケージを選択します。

■ Microsoft .NET Framework	.NET Framework2.0
■ SuperPro	ライセンスキー用ドライバー
■ Matrox Graphics Display Drivers	Matrox 製グラフィックスカード用ドライバー

#### 4) Available Systems

リリース.exeを動かす環境にインストールするMatrox製フレームグラブのドライバーを選択します。

#### 5) DirectX

リリース.exeを動かす環境にインストールするDirectXのドライバーを選択します。

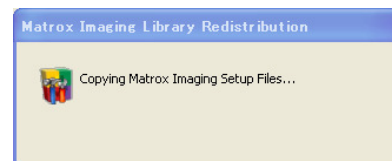
■ DirectX 9 GPU support	DirectX 9用ドライバー
■ DirectX 10 GPU support	DirectX 10用ドライバー
■ Microsoft DirectX Redist	DirectX 再販用ドライバー

「DirectX Display Support」にチェックを入れた場合、自動的にDirectX 9 GPU supportとMicrosoft DirectX Redistにチェックが入ります。DirectX 10 GPU supportは選択可です。

#### 6) Memory/PCI Services

項目4)で一つ以上のドライバーを選択した際、自動的にチェックが入ります。

- 1)から6)を設定後、「Generate Installation」ボタンを押すと、1)で指定した場所に再販インストーラの保存を開始します。

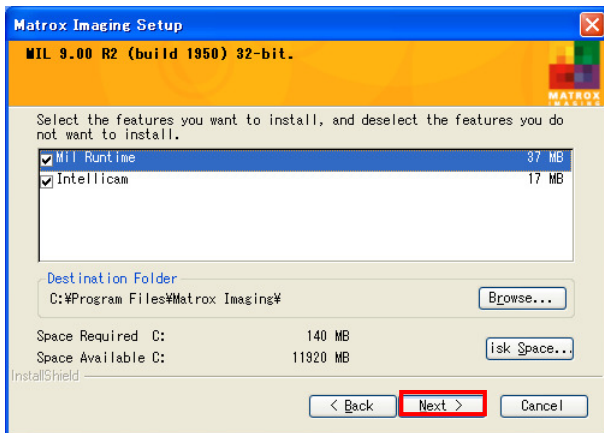


以上で、再販インストーラが出来上がります。

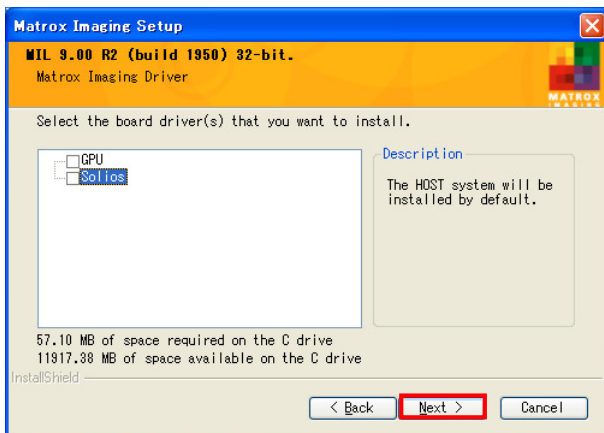


## 2. 再販インストーラのインストール

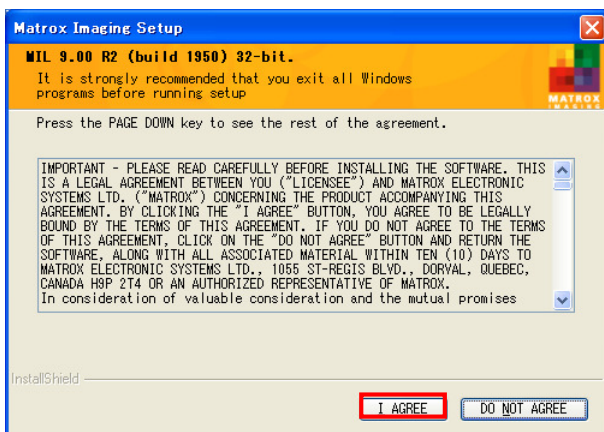
作成したMIL 再販インストーラをリリース.exe を動かす環境にインストールします。



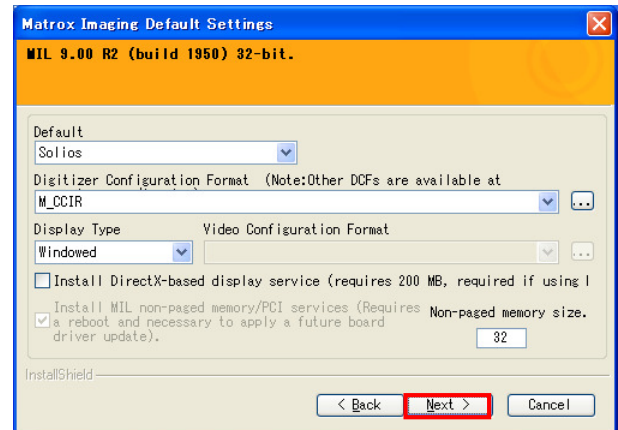
インストールするパッケージを選択し、「Next」ボタンをクリックします。



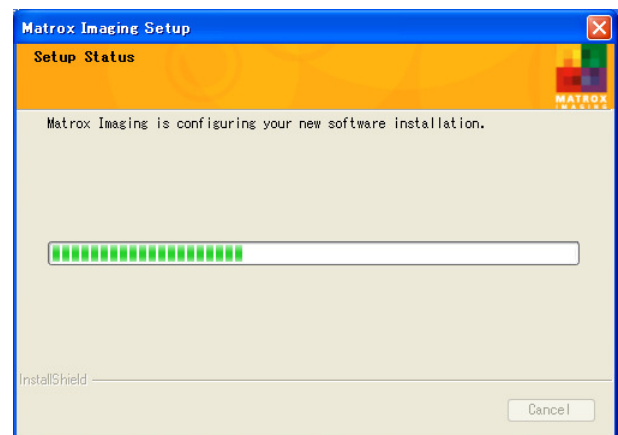
インストールするドライバーを選択し、「Next」ボタンをクリックします。



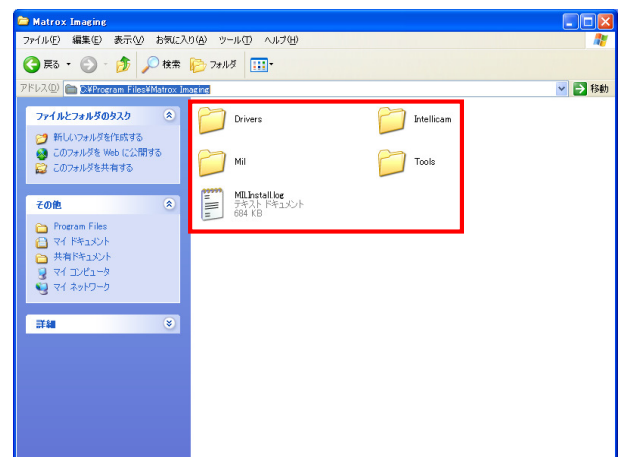
使用許諾書を確認し、よろしければ「I AGREE」をクリックします。



デフォルト設定として登録するフレームグラバ、DCF を選択し、「Next」ボタンをクリックします。



インストールを開始します。



再販インストーラは C:\Program Files\Matrox Imaging に保存されます。

以上で、再販インストーラのインストールは完了です。

ご不明な点に関するお問い合わせ先

キヤノン IT ソリューションズ株式会社

エンジニアリングプロダクト事業部

電話 : 03-6701-3450 (東京)、06-7635-3060 (大阪)

E-mail: [image-support@canon-its.co.jp](mailto:image-support@canon-its.co.jp)

URL : <http://im.canon-its.jp>